

ワークショップ開催概要

- 開催日時 2024年8月3日（土） 14:00～16:00
- 開催場所 柴田町保健センター4階多目的ホール
- 参加人数 29名
・5グループで実施
・継続の参加者は、第1・2回と同じグループ分け
- テーマ ①図書館内に整備する「機能」を考える
②「機能同士の関係性」を考える
- グループワークの内容 第1回WSで挙げられたアイデアや、第2回WSで考えたキャッチフレーズを実現するために「どのような機能を、どのように配置するか」について、図書館に想定される様々な機能が書かれた「めんこ」を使いながら考えた。

>めんこ一覧（当日資料より）

1 | めんこの準備

図書館に想定される様々な機能が書かれた「めんこ」を各グループに1セットずつお配りしています。

基本のめんこ
(基本構想に記載の機能から抜粋)

WSアイデアのめんこ
(1・2回WSで意見が挙がった機能から抜粋)

追加するめんこ

当日の様子



A

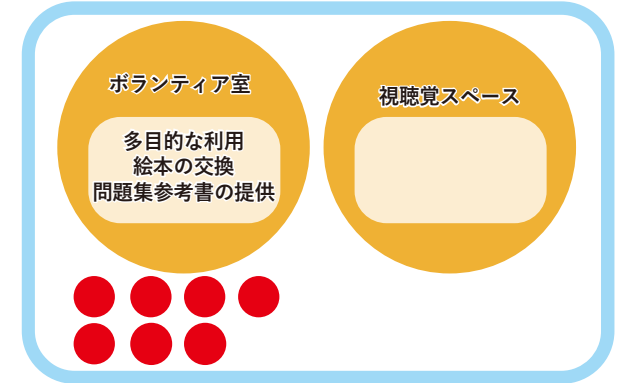
子どもと共に成長する「もみの木図書館」 (柴田の歴史を感じさせる)

子どもを最優先に考えることで、他の年代も継続に来てくれるような、成長する図書館像と共に、「縦の木は残った」をモチーフに柴田の歴史に繋がるイメージが示された。

要旨

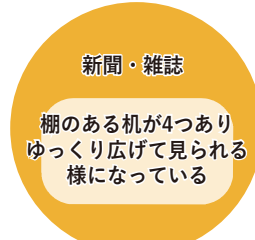
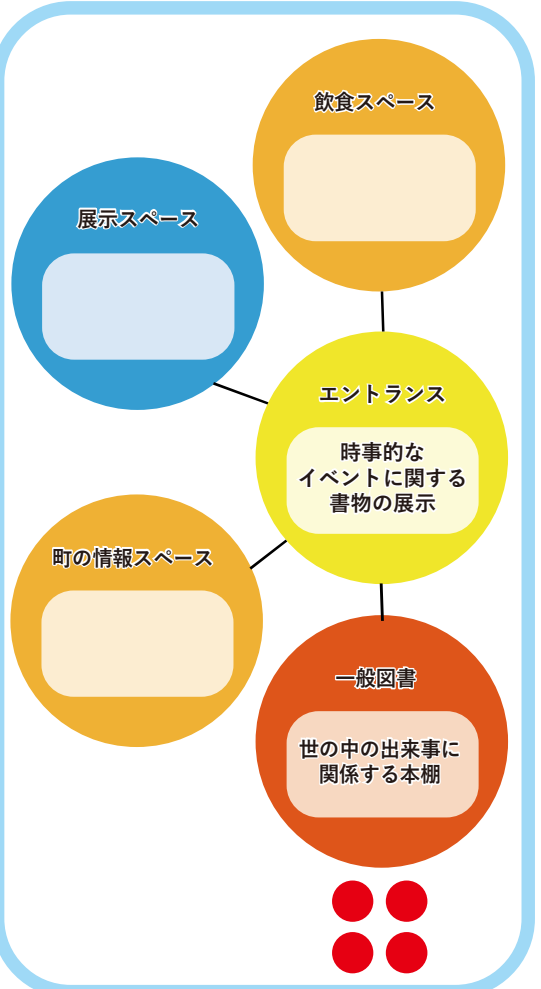
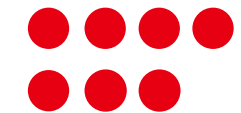
子どものスペースを広くとりつつも、時間帯によって大人も利用できるスペースとして多目的に利用できる構成が提案された。
また、子どもの本は年齢に応じたゾーニングが提案された。

多目的

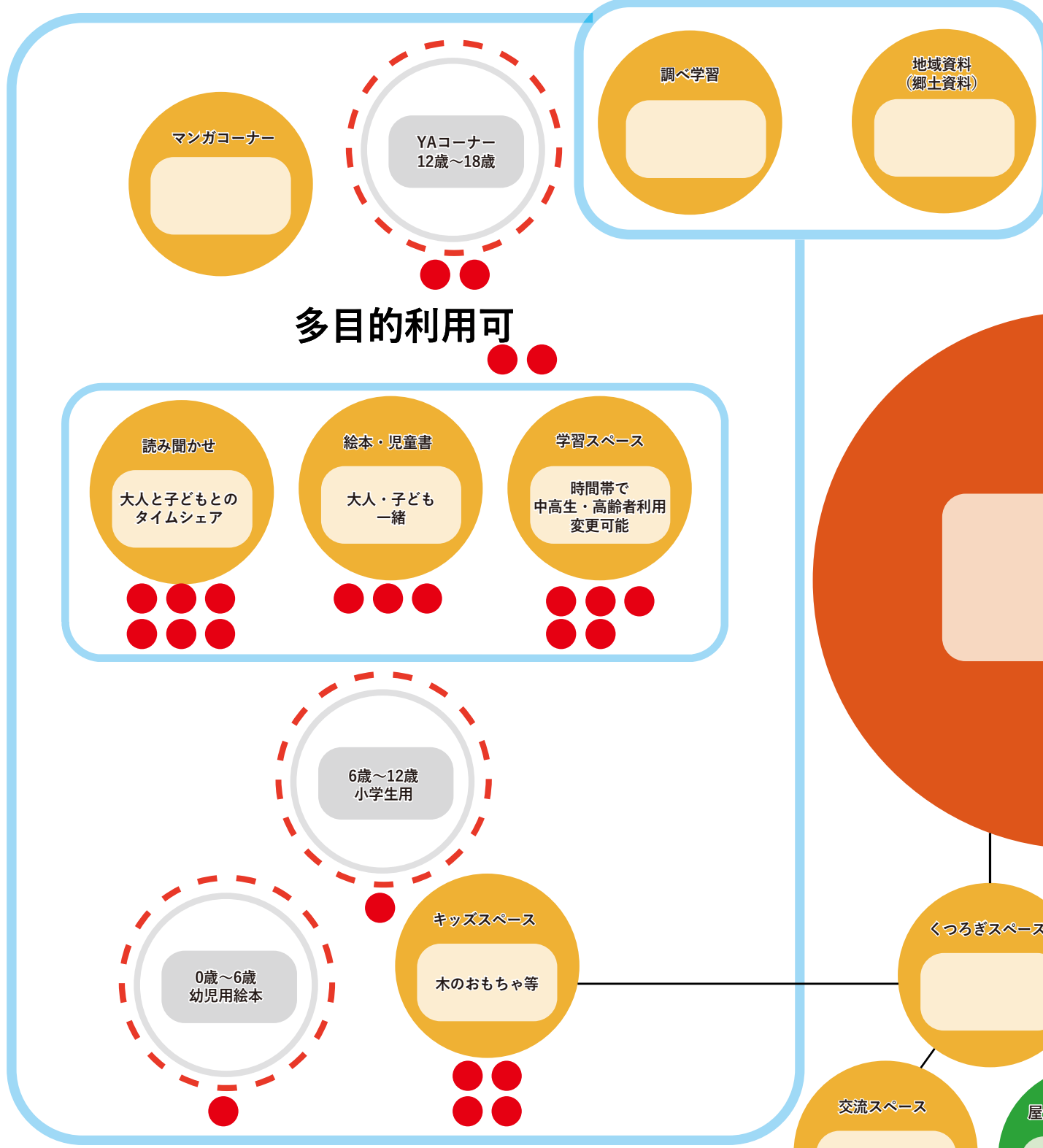


エントランス

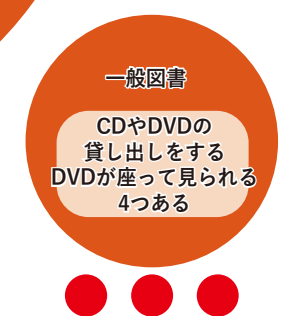
もみの木が
あなたを
迎えます



多目的利用可



こども



● : 発表後のシール貼りで集まったシールを示す

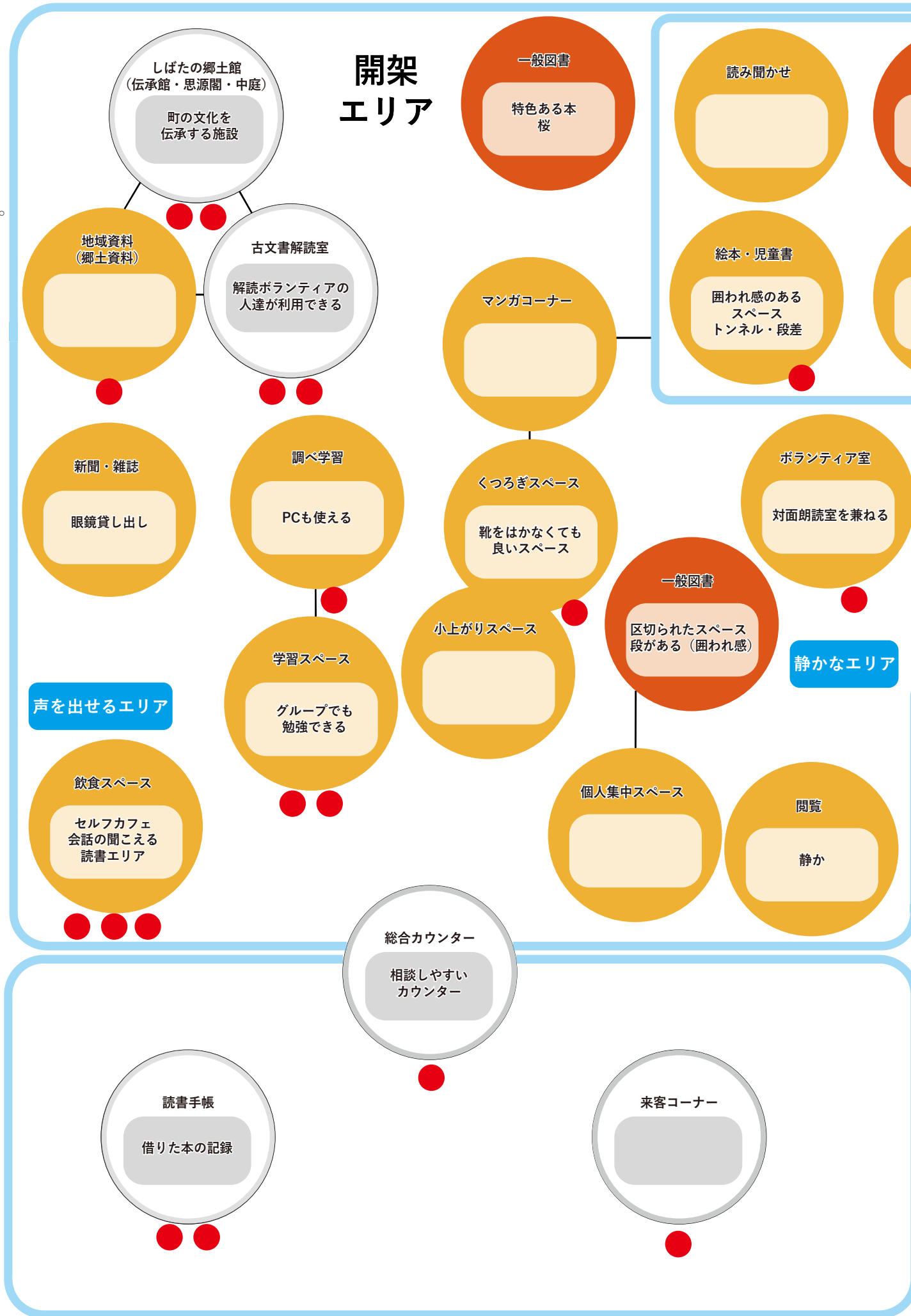
B

私の秘密基地

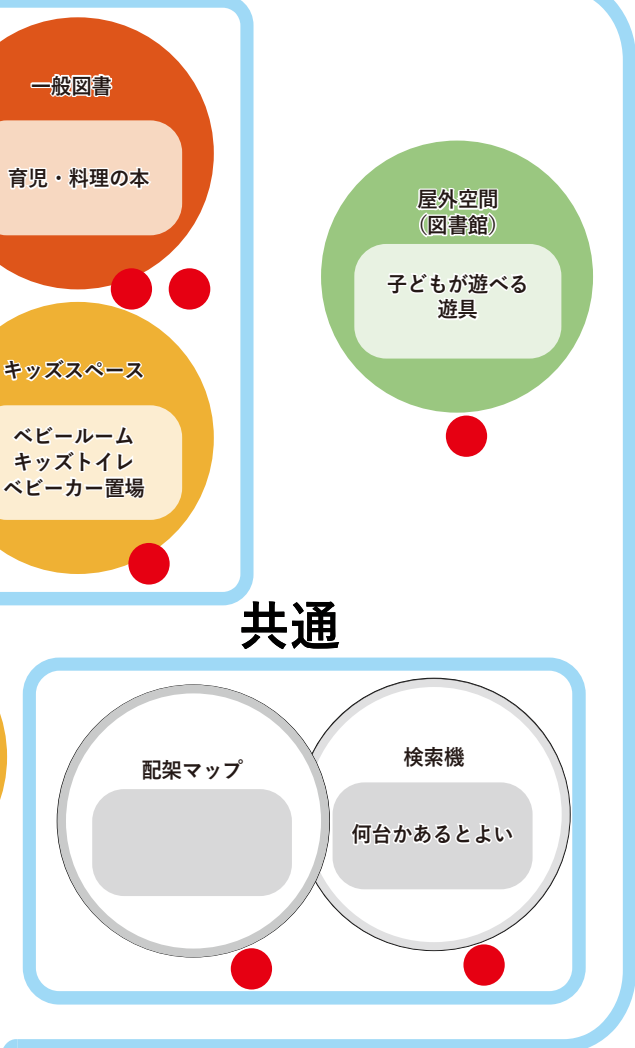
「秘密基地」という言葉の中に、自分の時間を自由に過ごす、色々な人と交流しながらみんなでも楽しめる図書館という意味が込められている。



エントランス



バックヤード



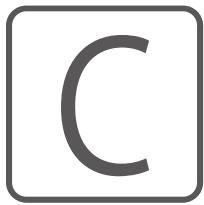
入口 **静かなエリアに直接入れる入口**

要旨

エントランスエリアに住民の作品や地域のお宝を展示できるスペース、町の情報スペース、イベントスペース、本の寄付コーナー等を配置し、エントランスエリアの充実や、町民の図書館運営への参画が提案された。

開架エリアは声を出せるエリアと、静かなエリアのゾーニング分けにより自分の時間も、交流の時間も過ごしやすい空間構成が提案された。

● : 発表後のシール貼りで集まったシールを示す



よりそう図書館

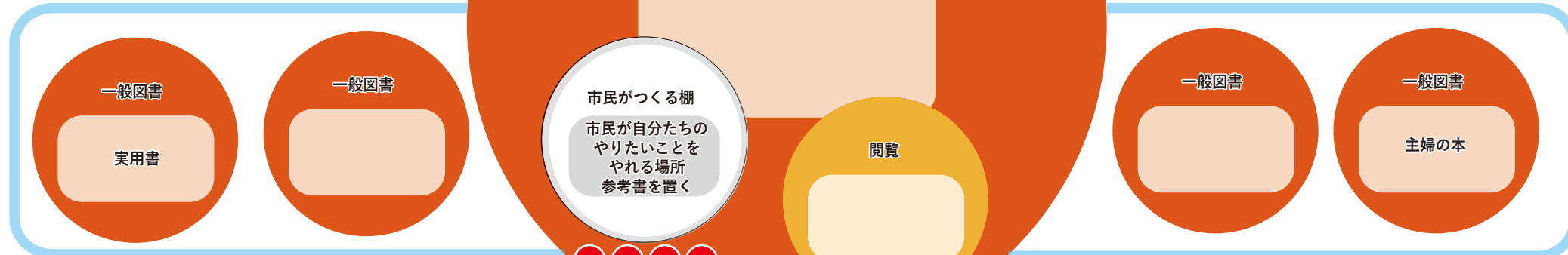
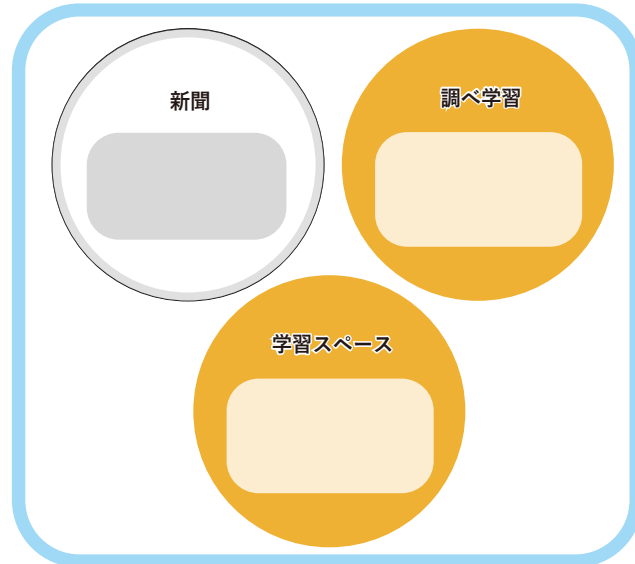
様々なサービスのアイデアを集約して、素でいられる、何でも相談できる、実践できる、みんな安心して集まれる、など多角的な視点を利用者に「よりそう」という言葉に込めている。

要旨

イベントスペースや子どもゾーンの近くに、それぞれの活動と関連した本を配置することが提案された。またイベントスペースは展示スペースや屋外空間と連携した「可変性のある空間」として、様々な町民の活動を受け入れるような空間が提案された。

そのほか、子どもゾーンの見守りやすさを考慮した空間構成や、町民が内容を企画できる棚（市民がつくる棚）など、安心して利用できる、町民のアイデアが集まる構成が提案された。

静かなエリア



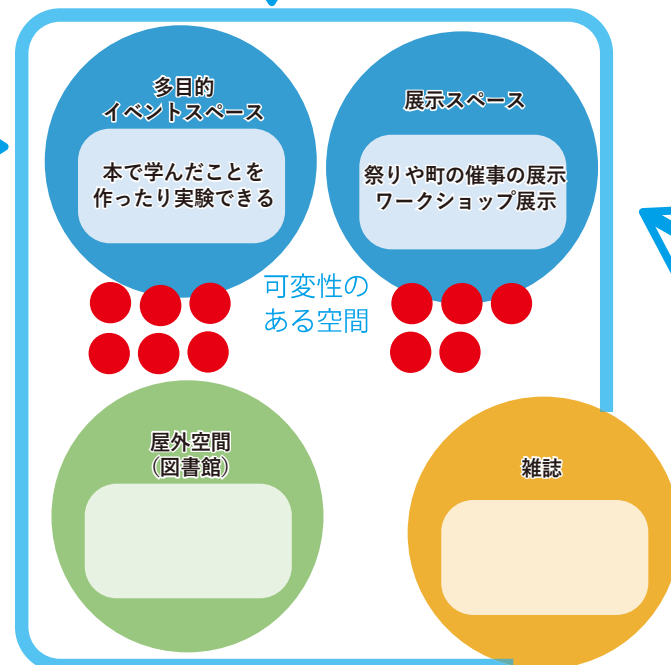
活動に関連する本

活動に関連する本



情報を提供

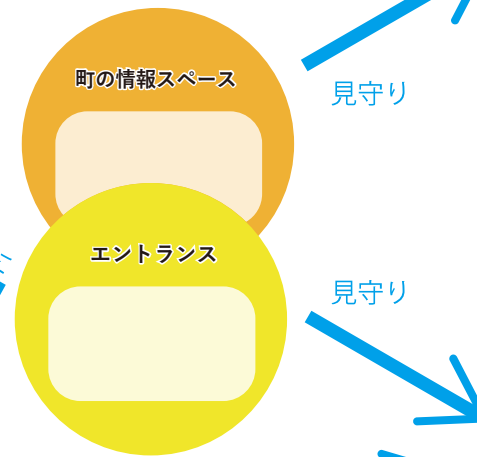
興味を持った人が街に



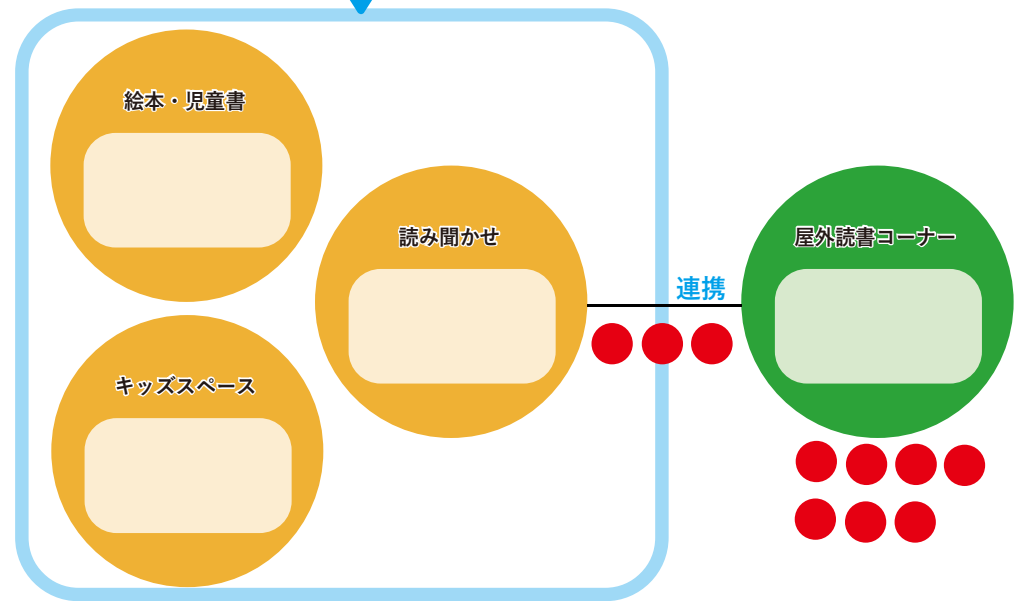
イベントスペース

可変性のある空間

目につく位置に



入口



子どもゾーン

連携

● : 発表後のシール貼りで集まったシールを示す

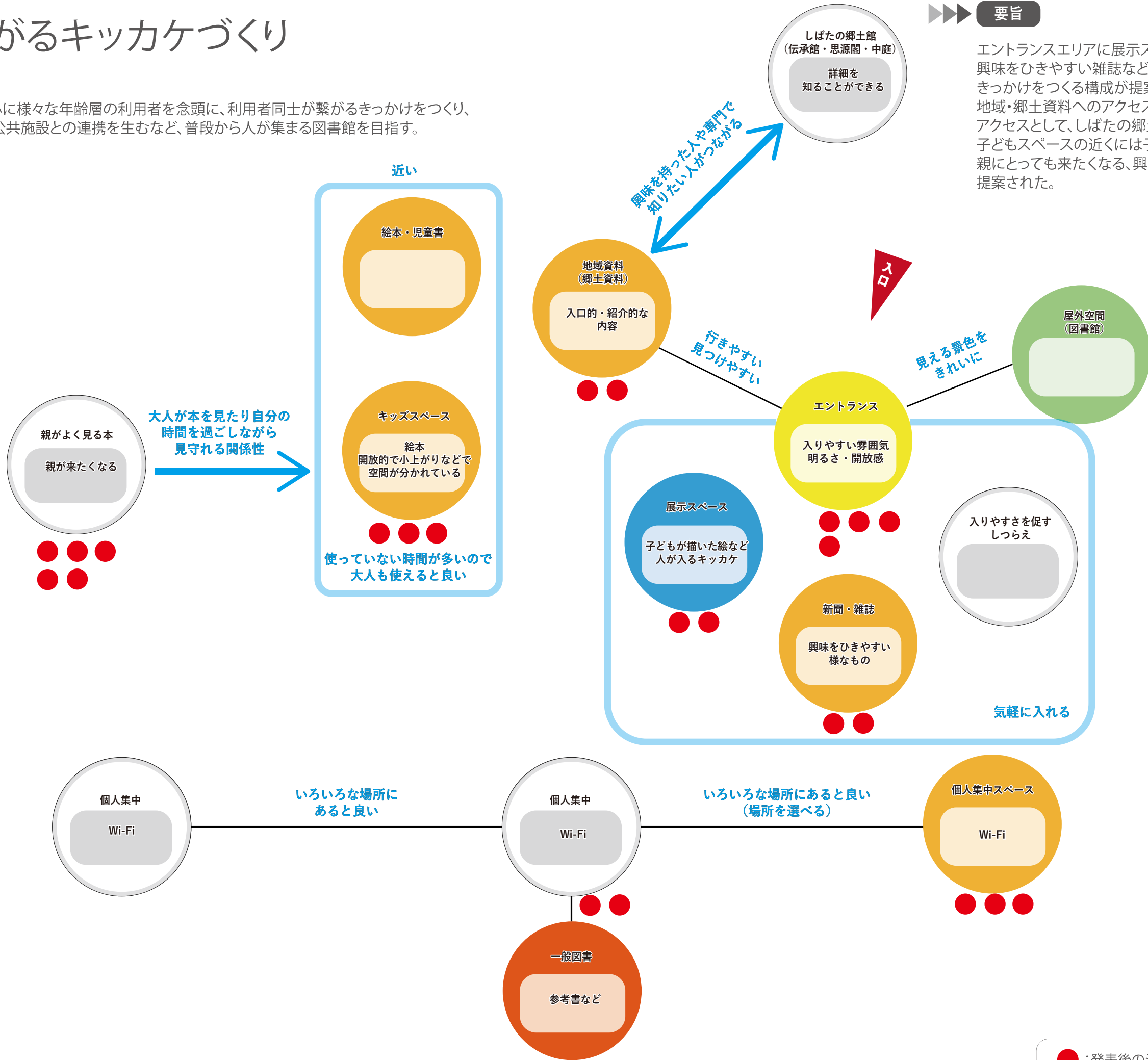
D

つながるキッカケづくり

子どもを中心に様々な年齢層の利用者を念頭に、利用者同士が繋がるきっかけをつくり、学校や他の公共施設との連携を生むなど、普段から人が集まる図書館を目指す。

要旨

エントランスエリアに展示スペース(子どもの絵の展示など)や興味をひきやすい雑誌など、気軽に施設に入ってもらえるきっかけをつくる構成が提案された。地域・郷土資料へのアクセスのしやすさ、さらに深い情報へのアクセスとして、しばたの郷土館とのつながりが提案された。子どもスペースの近くには子どもだけでなく、一緒に訪れた親にとっても来たくなる、興味をもてる本を配置することが提案された。

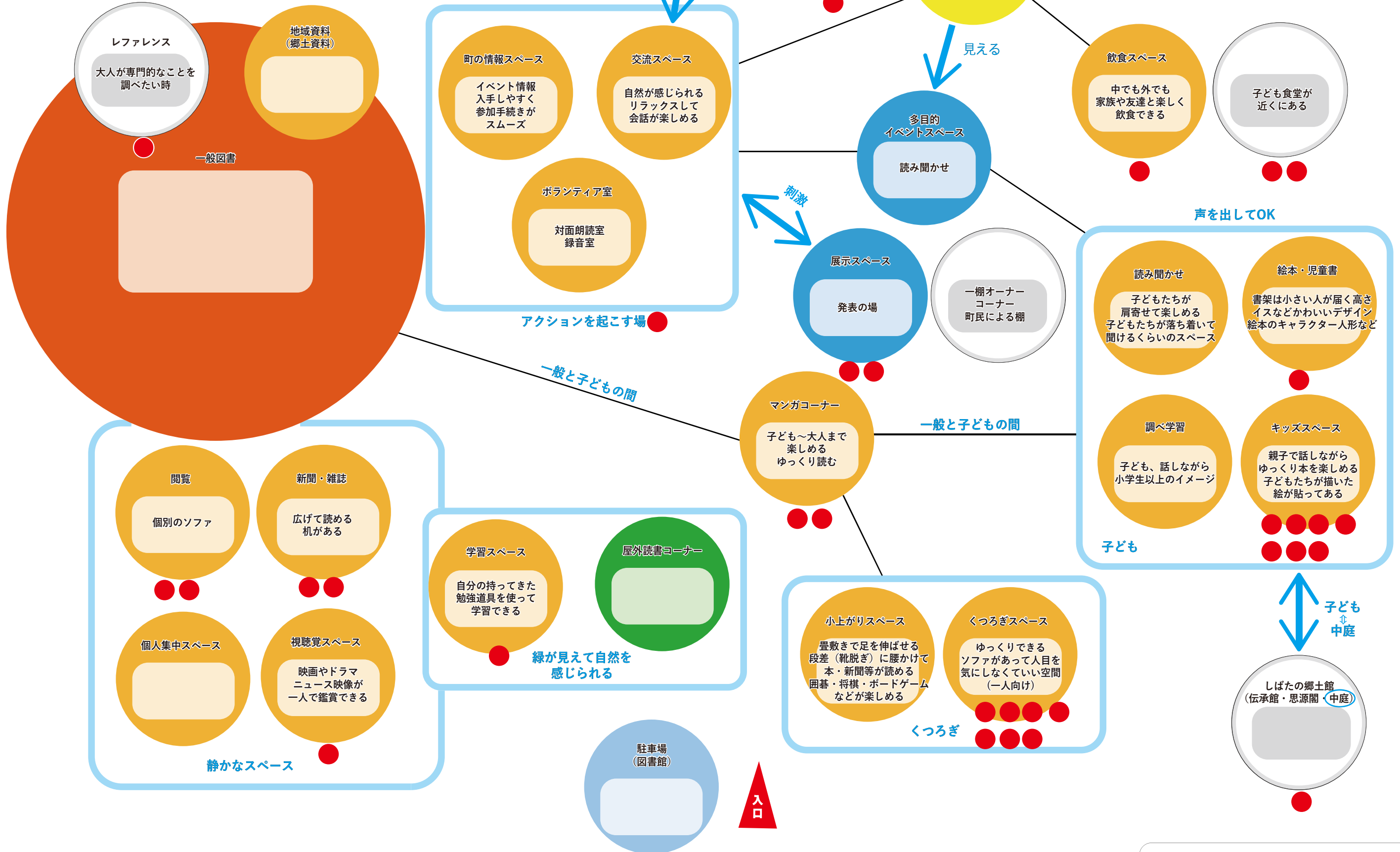


● : 発表後のシール貼りで集まったシールを示す

E

自分を豊かにしてくれるオアシス

利用者だけでなく図書館司書も含めて、人の心が豊かになる場所を目指す。
 様々な目的を持つ利用者がプラスな気持ちになれるよう、安らぎを与える図書館のイメージ。



要旨

子どもスペースは声を出してもよいスペースとしてまとめることや、しばたの郷土館の中庭とのつながりが提案された。エントランスにつながるイベントスペースや展示スペースは交流スペースや情報スペースなどと連携しながら、訪れた人に様々なプラスをもたらす仕組みが提案された。

● : 発表後のシール貼りで集まったシールを示す

○機能関係WSで出されたアイデアの整理

■ これまでのワークショップを通して得られた様々な意見から考えられる、柴田町ならではの図書館を実現するための全体像

- ①町民同士のコミュニケーションの場や居場所(本「も」読める場所)となる図書館
- ②町が誇る歴史・郷土を学べる場やアピールできる機能を整備し、しばたの郷土館とも連携しやすい図書館
- ③エントランスゾーンには、図書館に用が無い人でも図書館を訪れるきっかけとなる機能を整備し、子どもを含めた多世代が利用できる図書館

■ 各グループからの意見(内容の近いものを横に並べる)

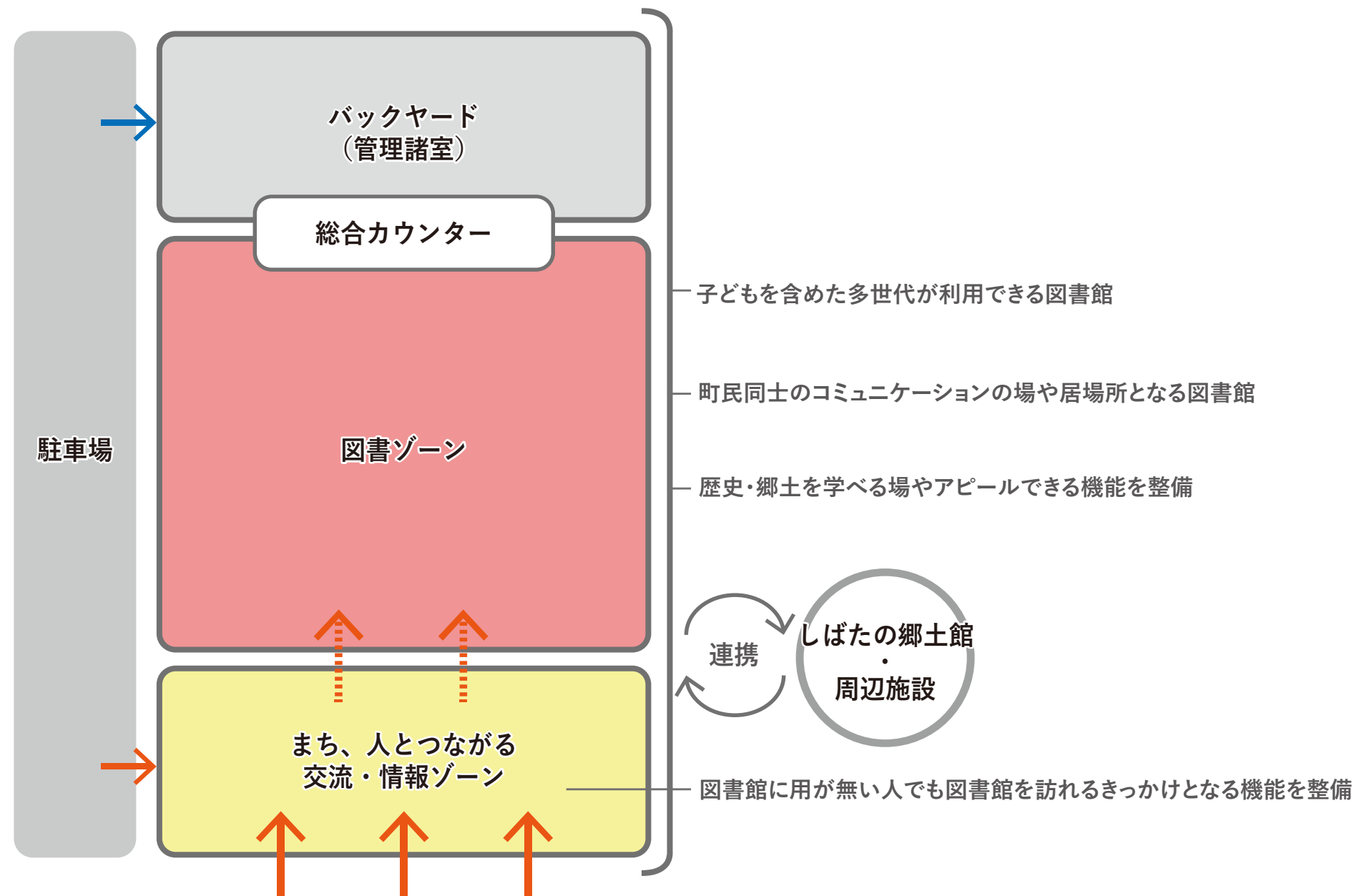
※●は発表後のシール貼りで集まったシールの数を表す。(●:1~3個、●●:4~5個、●●●:6個以上)

		A	B	C	D	E	機能関係図(案)への反映		備考	
		子どもと共に成長する「もみの木図書館」 (東田の歴史を感じさせる)	私の秘密基地	よりそう図書館	つながるキッカケづくり	自分を豊かにしてくれるオアシス				
エントランスゾーン	展示スペース	エントランスゾーンに展示スペースを配置	エントランスゾーンに展示スペース(地域住民の作品展示、地域のお宝コーナー)を配置 ●●	エントランスから目につきやすい位置に展示スペース・多目的イベントスペースを配置 ●●	子どもの絵を展示する等により図書館に入りやすいきっかけをつくる ●	発表の場としての展示スペース ●	⇒ エントランスに展示スペースを計画	1	イベントスペース、町の情報スペース、展示スペース、交流スペースが相互に連携して運用できる計画や可変的な室の作り方も検討 展示の内容によって運営主体が誰になるのか等、運用方法の検討要	
		タイムリーな(時事的、世の中の出来事に関する)本の展示 ●●			興味をひきやすい新聞・雑誌等を入口付近に配置することによって気軽に入れる雰囲気をつくる ●		⇒ 訪れた人の関心をひきやすい特集展示コーナーをエントランスから見える位置に配置	2		
	町の情報スペース	エントランスゾーンに町の情報スペースを配置	エントランスゾーンに町の情報スペース(今の町の情報)やイベントスペースを配置	エントランスゾーンに町の情報スペースを配置			⇒ エントランスに町の情報スペースを計画	3		
	交流・イベントスペース			屋外空間と連携したイベントスペース		エントランスから多目的イベントスペース(読み聞かせ)が見える	⇒ エントランスにイベントスペースを計画 屋外空間との連携もできる配置	4		
				イベント・展示スペースは地域・郷土資料と連携(情報を提供)			⇒ 町の文化や歴史をテーマとしたテーマ展示(配架)エリアをエントランスと図書ゾーンの間に計画	5		
						町の情報スペースや交流スペースは外からアクセスしやすく、展示スペースや多目的イベントスペースとも連携しやすい配置とすることで、それぞれの活動が興味をひきあう関係性 ●	⇒ 誰でも気軽に利用でき、機能同士の連携が可能なエントランスゾーンを整備	6		
				イベント・展示スペースは可変性のある空間 ●			⇒ 多目的に利用できるイベントスペースを検討	7		機能によってはしばたの郷土館の活用を検討
				本で学んだことを実践できる(作ったり、実験など) ●●●						
	飲食スペース	エントランスゾーンに飲食スペースを配置	飲食スペース(セルフカフェ) ●			エントランス付近に屋内外で飲食できるスペースを配置 ●	⇒ 飲食可能スペースをエントランス付近に計画	8		
その他		静かなエリアに直接アクセスできる出入口		入りやすい雰囲気のある設え・明るさ・開放感 ●●	くつろぎスペースや学習スペース付近に出入口	⇒ 本を借りる目的ではない人も入りやすい出入口位置の設定	9			
書架エリア	音のゾーニング	声を出せるゾーンと静かなゾーンの区分		静かなエリアに新聞・調べ学習・学習スペースを配置 ●		個別閲覧席・新聞雑誌・視聴覚スペース・個人集中スペースは静かなスペースとして整備 ●	⇒ 個人スペース(学習、閲覧)や視聴覚スペースは静かなゾーンとしてまとめる	10		
		閲覧席や個人集中スペースは静かなゾーンに寄せて配置					⇒ 飲食スペースは声を出してよいエリア(エントランスに近いエリア)に配置	11		
		飲食スペースは声を出してよいエリアに配置								
	全体の配架	配架マップや検索機(複数台あると良い)を設置 ●	子どもゾーンやイベントゾーン等、それぞれのゾーンの近くにその活動に関係する本の配架				⇒ 各ゾーンの近くにそれぞれの活動に関係する本の配架 (イベントスペース付近にテーマ展示棚、地域・郷土資料の付近に町の歴史や文化を紹介する棚、子供のスペースの付近に親子で楽しめる本、等)	12	テーマ展示としてどのようなテーマがふさわしいか、一時的なイベントに応じたテーマ展示も可能か運営方針と要調整 検索機など機器の導入は運営方針と要調整	
	総合カウンター	司書さんとコミュニケーションが取れるカウンター(相談しやすいカウンター)				レファレンス(専門的なことを調べたい時利用) ●	⇒ わかりやすい、立ち寄りやすい位置に相談しやすい(形状等を工夫)総合カウンターを計画	13	カウンターの用途について、運営方針と要調整。(自動貸出機の導入があるかなど設備の導入方針によっても検討必要)	
	地域・郷土資料	地域・郷土資料としばたの郷土館(伝承館)が連携 ●	地域・郷土資料としばたの郷土館が連携(興味を持った人が町に出かけるきっかけ) ●●	地域・郷土資料(入口・紹介的な内容)としばたの郷土館(興味を持った人が専門的な内容を知れる)が連携 ●			⇒ しばたの郷土館とも連携しやすい地域・郷土資料の配架スペースの配置	14	郷土資料コーナー、しばたの郷土館が担う機能の棲み分けについて、検討要	
		調べ学習・地域郷土資料は近くに配置	古文書解説室(解説ボランティアの方が利用できる) ●				⇒ 地域・郷土資料の近くには調べ学習スペースを計画	15	調べ学習スペースは調査利用の方などが一定期間利用できるような設え等、利用コースと併せて設えを検討	
					エントランスに近い位置に郷土資料を紹介するコーナーを配置し、興味を持ってもらうきっかけをつくる ●		⇒ エントランスに近い位置に地域・郷土資料コーナーを計画	16		
	子ども	子どものスペースをある時間帯は大人も利用できるようにする(多目的利用を可能とする) ●●●			子どものスペースをある時間帯は大人も利用できるようにする/キッズスペースは開放的で小上がりなど(閉鎖的でないもの)で空間が分かれる設え ●		⇒ オープンな空間構成の子どものコーナー 子どもの利用に限らない設え及び運用計画	17	運営方針と要調整	
		読み聞かせ・絵本児童書・学習スペースは近くに配置	読み聞かせ・絵本児童書・キッズスペースは近くに配置	読み聞かせ・絵本児童書・キッズスペースは近くに配置	絵本児童書・キッズスペースは近くに配置	読み聞かせ・絵本児童書・調べ学習・キッズスペースは近くに配置、声を出してよいスペースとして整備(絵本をその場で読んであげられる)	⇒ 子どもに関連する読書や図書は近くにまとめる 声を出してもよいスペースとして整備する	18		
		子ども(0~18歳)のスペースを大きく取る	キッズスペース付近に子ども用トイレやベビールーム、ベビーカー置場を配置 ●			親子で話しながらゆっくり本を楽しめるキッズスペース ●●●	⇒ 子どもを連れてきた親にとっても本を楽しめる、関心のある本が見つかる配架計画	19		
		キッズスペース付近に育児・料理の本を配置			キッズスペースの近くに親が良く見る本を配置(見守りやすく親も本を楽しめる/親が来たくなる設え) ●●	子どもたちの絵を貼る	⇒ 子ども向けの図書は対象となる子どもの年齢に応じた配架計画	20		
年齢に応じて子どもの本をゾーニング(0~6歳 乳幼児、6~12歳 小学生、12歳~18歳 YA) ●●							⇒ 落ち着いて子どもが本を楽しめる空間の設え、かつ見守りやすい配置計画	21	子どもでも使いやすい高さの書架を選定する等、利用者を考慮した書架計画	
	囲われ感のある児童書閲覧コーナー(トンネル・段差) ●	エントランスゾーンから見守りやすい位置に子どものゾーンを配置			書架は小さい人でも使いやすい低いもの ● 柴田の郷土館の中庭との連携 ●	⇒ 柴田の郷土館の中庭にアクセスしやすい経路を計画	22			
学習スペース	時間帯で中高生/高齢者シェア ●●	学習スペースはグループでも使えるように ●			自分で持ってきた勉強道具を使って学習できる ● 子ども用の調べ学習スペース	⇒ グループ学習やPCの利用も可能な学習スペースを計画 時間帯に応じて異なる年代層が利用しやすいように計画	23	利用の仕方については運営方針を踏まえて要調整		
	ボランティア	ボランティア室は対面朗読室を兼ねる ●			ボランティア室は対面朗読室、録音室を兼ねる	⇒ ボランティア室は対面朗読室、録音室を兼ねた部屋として計画	24			
閲覧席	棚のある机が4つあり、ゆっくり雑誌や新聞を広げて見ることのできる設え ●	静かな閲覧席			いろいろな場所に個人集中スペースがあると良い(場所を選べる、Wi-Fi) ●●● 参考書が個人集中スペースの近くにある	雑誌や新聞を広げて見ることのできる机 ● 個別のソファ ●	⇒ 個人スペースは複数の場所に計画 それぞれの使い方に応じて場所が選べる設えを検討	25		
	その他	視聴覚資料のブースを設ける ●	マンガコーナーはくつろぎスペースと子どものスペースの間に配置			マンガコーナーは大人も子どもでもアクセスしやすい位置に配置、ゆっくり読むことができる ●	⇒ マンガコーナーは子どもから大人までアクセスしやすい配架計画	26		
	くつろぎスペース、交流スペース、屋外読書コーナーをまとめる	靴を履かなくてもよいくつろぎスペース・小上がり ●	読み聞かせコーナーと屋外読書コーナーの連携 ●●●			ソファや人目を気にしなくてよい空間のくつろぎスペース ●●●	⇒ くつろぎ・交流・屋外読書はまとめて計画 読み聞かせと屋外読書の連携も検討	27		
その他	ボランティア室を多目的に利用(絵本の交換、問題集や参考書の提供) ●●●	本を寄付できる本棚、本の交換コーナーを配置 ●●	町民がつくる棚(参考書を置く、町民が置きたい本を置く)を配置 ●●●			町民による本棚を設置(一棚オーナーコーナー)	⇒ 町民が使い方を考えられる本棚の設置 (図書館運営に関して町民が参画可能な場の計画)	28	図書館の運営方法との整合が必要(ボランティア団体との連携も含め)	
外部空間	駐車場	雨に濡れずに建物にアプローチできる障害者駐車場、乗降が楽なロータリー ●●●					⇒ 車寄せ等から図書館まで雨に濡れないアクセス経路の計画	29		
	屋外利用		子どもが遊べる遊具 ●		室内から見える外の景色はきれいに	交流スペースや学習スペースは自然を感じられる	⇒ 室内からも外の自然を感じられる設え	30		
		屋外読書コーナー	屋外読書コーナー				屋外読書コーナー			
その他	シンボルツリーとしてもみの木を植える ●●●						⇒ 町の気候、風土、文化に適した植栽を選定	31	維持管理方針と併せて検討 屋外空間WSを踏まえて検討	

■これまでのワークショップを通して得られた様々な意見から考えられる、柴田町ならではの図書館を実現するための全体像

- ①町民同士のコミュニケーションの場や居場所(本「も」読める場所)となる図書館
- ②町が誇る歴史・郷土を学べる場やアピールできる機能を整備し、しばたの郷土館とも連携しやすい図書館
- ③エントランスゾーンには、図書館に用が無い人でも図書館を訪れるきっかけとなる機能を整備し、子どもを含めた多世代が利用できる図書館

施設の構成イメージ(案)



10 個人スペース(学習、閲覧)や視聴覚スペースは、静かなゾーンとしてまとめる

17 オープンな空間構成の子どものコーナー
子どもの利用に限らない設え及び運用計画

24 ボランティア室は対面朗読室、録音室を兼ねた部屋として計画

12 各ゾーンの近くにそれぞれの活動に関係する本の配架
(イベントスペース付近にテーマ展示棚、地域・郷土資料の付近に町の歴史や文化を紹介する棚、子供のスペースの付近に親子で楽しめる本、等)

26 マンガコーナーは子どもから大人までアクセスしやすい配架計画

15 地域・郷土資料の近くには調べ学習スペースを計画

13 わかりやすい、立ち寄りやすい位置に相談しやすい(形状等を工夫)
総合カウンターを計画

23 グループ学習やPCの利用も可能な学習スペースを計画
時間帯に応じて異なる年代層が利用しやすいように計画

30 室内からも外の自然を感じられる設え

9 本を借りる目的ではない人も入りやすい出入口位置の設定

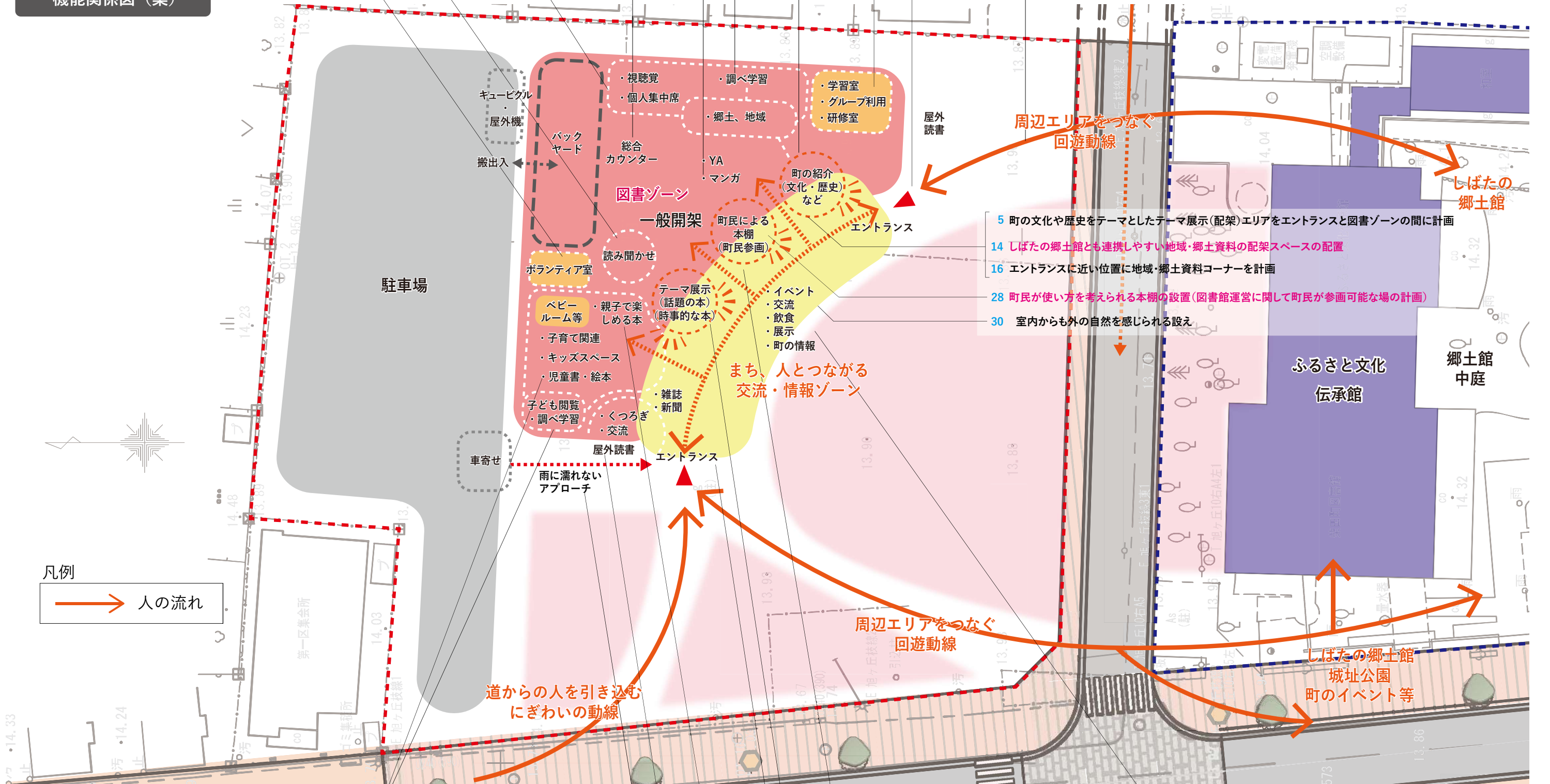
22 柴田の郷土館の中庭にアクセスしやすい経路を計画

[全体]

25 個人スペースは複数の場所に計画
それぞれの使い方に応じて場所が選べる設えを検討

31 町の気候、風土、文化に適した植栽を選定

機能関係図 (案)



凡例
→ 人の流れ

18 こどもに関連する諸室や図書は近くにまとめる
声を出してもよいスペースとして整備する

20 子ども向けの図書は対象となる子どもの年齢に応じた配架計画

21 落ち着いて子どもが本を楽しめる空間の設え、かつ見守りやすい配置計画

29 車寄せ等から図書館まで雨に濡れないアクセス経路の計画

27 くつろぎ・交流・屋外読書はまとめて計画
読み聞かせと屋外読書の連携も検討

19 子どもを連れてきた親にとっても本を楽しめる、関心のある本が見つかる配架計画

12 各ゾーンの近くにそれぞれの活動に関係する本の配架
(イベントスペース付近にテーマ展示棚、地域・郷土資料の付近に町の歴史や文化を紹介する棚、子供のスペースの付近に親子で楽しめる本、等)

2 訪れた人の関心をひきやすい特集展示コーナーを
エントランスから見える位置に配置

9 本を借りる目的ではない人も入りやすい出入口位置の設定

5 町の文化や歴史をテーマとしたテーマ展示(配架)エリアをエントランスと図書ゾーンの間に計画

14 しばたの郷土館とも連携しやすい地域・郷土資料の配架スペースの配置

16 エントランスに近い位置に地域・郷土資料コーナーを計画

28 町民が使い方を考えられる本棚の設置(図書館運営に関して町民が参画可能な場の計画)

30 室内からも外の自然を感じられる設え

1 エントランスに展示スペースを計画
3 エントランスに町の情報スペースを計画
4 エントランスにイベントスペースを計画
屋外空間との連携もできる配置

6 誰でも気軽に利用でき、機能同士の連携が可能なエントランスゾーンを整備

7 多目的に利用できるイベントスペースを検討

8 飲食可能スペースをエントランス付近に計画

11 飲食スペースは声を出してよいエリア(エントランスに近いエリア)に配置